

令和元年度

さぶろうまるだより

学力特集号

令和元年10月25日
北九州市立三郎丸小学校

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

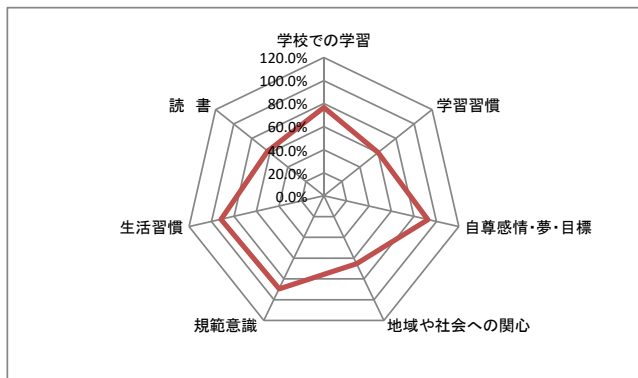
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語	どの領域にも課題がある。特に「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」領域に大きな課題がある。「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる」問題では、無回答率が多かった。条件をつけながら自分の考えをまとめる習慣を身に付けていく必要がある。	下回っている。
算数	どの領域にも課題がある。特に「量と測定」「数と計算」領域において大きな課題がある。求め方や理由を記述する問題では、無回答率が目立つ。記述の仕方と基礎的な計算力を身に付けていくことが課題である。まずはスキル学習で計算力を上げていく必要がある。	下回っている。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

・「自尊感情」に関しては、全国平均を上回っている。児童会活動・たてわり活動を中心として、自尊感情を高める取り組みの成果だと言える。一方、生活習慣・学習習慣に関しては大きな課題を抱えている。不規則な生活習慣が学習習慣に大きな影響を及ぼしていると考えられる。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・どの教科も「話し合い活動」を継続していく。身につけさせたい内容を考え、「どんなテーマで」「何を」話し合わせるのかを明確にする。
- ・給食準備時間などを活用し、補充学習を行う。まず、学習する習慣を身につけることを優先する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・ゲームやスマホが及ぼす害について、学習参観・懇談会などのときに積極的に呼びかける。学校だよりや「子育て茶話会」でも呼びかけていく。